

群難連機関紙 新刊44号

編集責任者

群馬県難病団体連絡協議会

群難連機関紙編集委員会

前橋市新前橋町13-12

群馬県社会福祉総合センター内

〒371-0843 TEL・FAX027-255-0035

〈群難連ホームページアドレス〉

<http://www5.ocn.ne.jp/~g-nanbyo/>

# SSK 群なんれん

平成20年度

## 活動促進セミナー開催

群難連活動の歴史・意義を学び、それぞれの会の中心メンバーとして活動して欲しい、後継者となって欲しいとの願いから始まったセミナー。今年度も県社会福祉総合センターにおいて9月28日（日）、各患者会からの参加をいただき、総勢26名の参加で行われました。

▲スモンについて解説する寺山理氏

今回は、より和やかな交流を目的に最初から4つのテーブルに分かれていただきました。

今回は、当会相談役である寺山、羽田の両氏に講師をお願いしました。

寺山理氏には「スモンと群難連立ち上げの経過」と題して、ご自身の病気であるスモン（整腸剤として使用されたキノホルムによる薬害）について、その概要や病因・治療など。また、群難連創立時のご苦勞を、昔の資料を探して作成していただいた冊子をもとに、ダイレクト・プロジェクトも使用して話していただきました。

羽田邦夫氏には「私と肝炎、そして群馬肝臓病の会と薬害肝炎について」と題して、病と共に歩んで来られたお話など、語っていただきました。

▲肝臓病は酒の飲み過ぎの結果だ、という社会の固定観念に悩まされたことなども話された羽田氏



## 活動促進セミナーに参加して

今般、寺山（スモン）、羽田（肝臓病）両先輩の厳しい闘病生活の体験談を聞いて、心から敬服しました。誰も好きで病気になる人は居ません。お医者様も早く治る様にと投薬してくれるのだと思いますが、心ならずも薬害に結びつく事もあり、医療関係者が連携して事に当たれば薬害など起きなかつたと思います。新薬の開発にはお金が要り、それを取り戻す為、安全を確かめる事を怠り事故が起ります。小事の内に公表して使用を中止すれば大事に成らずに済む事です。政治、経済、福祉、教育等々全てにおいて現在は偽装、隠蔽がまかり通り多くの被害者が続出しています。

もはや、この様な事をする事は出来ない時代です。

私は今迄この様な愚痴を言っても病気が治るわけでも無し、無駄な戯言と思っていました。



私は平成元年冬に急性肝炎を発病し76日間も絶対安静でベットに居ました。春には退院出来ましたが、初夏に再発してしまい入退院を年に3〜4回も繰り返してインターフェロンの治療も3回程試し、平成7年にやっと数値も落ち着き、ウイルスも消えて現在に至っています。痛くも痒くもなく、全身がだるいばかりで生きるのが辛かった。

たです。折しもこの頃は非A型非B型の患者が沢山いて病院のベットが溢れる程でした。何か原因が有るのではと思いましたが、時が過ぎてしまいました。

今回は難病を持つ皆さんと思いい切り話をして帰宅してから、心が救われた様な気がして少量の晩酌をして熟睡出来ました。

薬害C型肝炎も世間的には解決した様に思われていますが、まだ序の口です。薬害被害者全員救済を目指して行きます。

△肝臓病の会会長 神久 勇▽

\*\*\*

初めてこのセミナーに参加する機会を得る事ができました。セミナーにおいては、今回、スモンと肝臓病について、共に苦労してこられた寺山氏、羽田氏のお話があり、病気についての悩み、克服していこうという気持ち、病気の発症原因、群難連の立ち上げ等ご苦労があったと

思います。

交流会においては、様々な難病を抱えた者同士が、明るく楽しんで自己紹介しながら話をさせているのを見聞き、自分自身も励まされました。自分の病気について話したくない気持ちが強くと、独りで悩んでいた状態が長くあり、多くの難病患者の皆さんの話を聞いているうちに自然と話にとけこんでいき、自分の病気のことを今までにない程度話す事ができました。

各難病を抱えていても、お互いに病気を受け入れ、家族、患者同士が支え合っている様子が見え、うかがえます。

今後も群難連の活動が、患者の心の支えになると思いますので、益々の活躍を期待し、まだまだ各難病団体に加入していない病に苦しんでいる多くの人達に仲間に入っていただき、独りで悩みを抱えず、情報交換等行い、共に取り組んでいくことが必要であると感じました。

△T・F▽

# 活動促進セミナー当日の

## アンケートから 抜粋 (順不同)

● 今回のセミナーは寺山氏、羽田氏のお話で、発足時のこと、

ご自身の病のことなど、自身の病歴とダブる所がありました。また、各会がバラバラの席は大変良かった。

● 大変な苦労があつて現在の活動があると改めて感じさせられ



た一日でした。お二方の体験談をお聞きして、勇気づけられ、

前向きに生きて行こうと思ひました。

● 薬害がいかに多いか、製薬会社、厚生省との闘いは大変ななあと思ひました。患者会の大切な事、勉強になりました。又、自分の病気に對して、自分なりに理解する事の難しさ、自分が

病気になる  
って初め  
て分かる  
思いなど、  
いろいろ  
考えると  
ころがあ  
りました。



● みんな  
がそれぞれに頑張っている様子がわかり、とても有益な時間を持てました。また、がんばろう!と思えます。

● 寺山相談役の話で、厚生省(現厚労省)の、国民の命の軽視と企

業の利益のためだけの姿勢にあらためて怒りを感じた。現在もその姿勢はまったく変わっていない。役人の自分自身の利益と天下り先の確保、企業の利益の為の行為は許せない。私もキノホルムの服用をしていたが、医師がすぐに中止してくれて助かった。私は腎臓病だが、輸血が透析中の感染でC型肝炎になりました。

● 薬害の恐ろしさをあらためて

感じました。仕事をしながらの訴訟や、患者会活動、長い間の御苦労があつて今

があると考えました。又、グループでの話し合ひは、それぞれ大変な思いをしながら闘病してきたのが分かり、自分だけではないと心強く、これからの励ましとなりました。



● 寺山さん、羽田さんの群難連の歴史を感じる話が大変参考になりました。交流会では、皆さんの話を聞き、大変なのは自分だけではない事が良くわかりました。

● 今回、初めて参加させて頂きました。自分とは違う人達の難病の話を聞かせて頂き、とても勉強になりました。何か初めてお逢ひした人達とは思えない程励まされ、感動し、親しみを感しました。参加してとても良かったです。

〔支援団体〕

## スズラン労組との懇談会

— 今後も協力しあっていくことを確認 —

9月25日、同労組事務所で開催

出席者は、スズラン労組から  
小林本部委員長、竹淵副委員  
長、市橋本部常任と梅沢書記が、  
群難連からは濹澤会長、萩原会  
計、町田事務局次長の3人。

はじめに小林委員長から、こ  
れまでの群難連活動に対する支  
援活動について説明があり、上  
部団体であるJSD（日本サー  
ビス・流通労働組合連合）とし  
て、弱者・お年寄りなど地域の  
人たちと一緒に町づくりにも取  
り組んでいることを話されまし  
た。また、今日の懇談会を組合  
員に報告し、今後どんな支援が  
できるか考えていきたい、と力  
強いお話しがありました。

濹澤会長からは、日頃からの  
物心両面にわたる支援にお礼を  
述べ、群難連が昨年取り組んだ  
国会請願署名数が全国2位にな  
ったこと、県内90の病院にリー  
フレットを配布して難病の啓発

活動をすすめていること、また、  
社会保険庁解体にともない群馬  
中央総合病院が2年後には譲渡  
先がなければ閉鎖されることに  
なることなど、医療をめぐる情  
勢を話しました。

この後ざつくばらんに、それ  
ぞれが取り組んでいる活動につ  
いて話し合い、今後もお互いに  
協力しあっていくことを確認し  
ました。



スズラン労組役員と懇談

### 【自民党政調懇への要望】

## 患者の悩みを切々と訴える

10月9日、県議会棟402会議室で「平成21年度群馬県当初予算に対する重点要望事項」について、自民党県連の厚生文化部に濹澤会長以下、各患者会代表が出席して、それぞれの要望を訴えました。午後1時から始まった部会で冒頭、久保田政調会長から「小泉首相は『構造改革』を聖域なく進めてきたが、必ず聖域はある。難病もそうだ。心配をかけている。医師不足は地方において、ますます深刻になっている。介護もたいへんな状況にある。緩和政策を進めるようにしていきたい」と、現状を変えていきたい旨の挨拶がありました。

群腎協の水沼会長は、昨年利根中央病院から透析医師が引き上げられようとした時の経過を話しながら、透析医師確保を訴えました。リウマチの会の角田会長は「リウマチは徐々に進行する病気なのに、リハ

ビリを途中で打ち切られた例も発生している」と、リハビリ医療の日数制限を無くしてほしいと要望しました。膠原病友の会の澤田会長は「シェーグレン症候群」の症状を説明し、県単独事業として医療費の公費負担を要請しました。心臓病の子どもを守る会からは、塚越さんと堀越さんが認定基準の格差是正、教育現場の改善を強く訴えました。肝臓病の会の神久会長は、潜伏期間の長い病気なので節目検診を延長してほしいと要望しました。小児糖尿病の会の坂本会長からは、サマーキャンプへの補助金継続と新任教師への病気に対する指導強化を訴えました。

切々とした訴えに、政調会長からは「丸岡部会長を中心にできるかぎりの応援をしたい」と力強い言葉が述べられ、前進が期待できそうに感じられた懇談会でした。

### 【群難連・交流会】開催

## 玉原ラベンダーパークの旅

パーキンソン病友の会  
井上 邦江

7月17日(木)群難連主催によるバスツアーに参加しました。8加盟団体、総勢24名での旅です。朝からすばらしい天気恵まれ、気温はうなぎ上りとなることも予想される中、新前橋駅裏の集合場所には明るく元気一杯の参加者が集まり、福祉バスで玉原高原へ向かって出発しました。

途中険しい山道を登り、迦葉山弥勒寺に参拝しました。鼻ペチャの私は天狗の鼻を少し分けて欲しいとおねだりをしました。

この後、玉原高原まで8キロ余り、曲がりくねった急な山道をバスにゆられて到着。早速全員での記念写真。その後、リフトに乗る人と歩いて行く人とに分かれ、私は主人とリフトで山の上のラベンダーを見に行きました。北海道富良野から株分けした5万株のラベンダー畑とのことですが、思っていたより規模が小さく思えました。でも、爽やかな高原の風に吹かれながら食べたラ

ベンダーのソフトクリームは最高に美味しかったですよ。帰りは、なめこセンターや川場の道の駅で農産物を沢山買い込み、4時半頃全員無事に帰って来ました。

今回は主人と一緒にだったこともあり、皆様とお話しする機会が少なかったと思いますが、次回は多くの方々と交流を深めたいと思います。皆様と楽しい1日を過ごすことが出来ました。誠に有難うございました。

▶ ラベンダー畑を背にパチリ。カラーでないのが残念!!



## 平成20年度 8月31日、県社会福祉総合センターにて 群難連と加盟団体との懇談会を開催

今年度は、午前中に会計担当者

いる」と答えた。

会議として事業計画・報告書における会計科目の統一・処理について話し合い、午後は団体長会議を行った。各会から出されている要望事項に対し、会長・役員より回答した。その中で、利根中央病院の透析問題・県予防課など関連機関対応については「各会と共に働きかけを行う」と回答。また、難病患者がセンター駐車場を利用する際に優遇措置を図れるよう会長より「実情を代表者会議で話したい」と答えた。

その他には\*役員後継者対策\*会員減少の歯止め問題\*役員同士のコミュニケーション\*名刺作成など各会の問題点や質問が出され活発な意見交換が行われた。群難連へは会員名簿管理に対し質問があり、会長は「個人情報でもあり厳重に管理して

加盟団体が一堂に会して行われる懇談会は、正しく群難連と患者会とのコミュニケーションを深め、来年度に繋げる会議と位置づけており、今後も各会との連携を密に図り、問題解決に取り組んでいく考えです。

△角田▽

### 一口解説

#### 指静脈マネー

現金やクレジットカードではなく、読み取り装置に指をかざすだけで代金の支払いを行うこと。指の中には静脈が網の目のように張り巡らされており、一人ひとりのパターンは違っている。利用者は、まず自分の静脈のパターンと銀行の支払口座をカード会社に登録しておく。代金支払い時、店頭にある読み取り装置に指をかざし、そこで登録済みの利用者と認証されれば、口座から代金が引き落とされ、支払いが完了する。

【新語探検】より

# 語り部授業

パース大学  
7月14日(月)

昨年の全国難病センター研究会（10/27、28・富山）で発表された、石川県での取り組み「語り部授業」。興味深く学んできた角田・小林の両副会長がその第2回目を、今回はパース大学で将来、医療関連で働くであろう学生を対象に行いました。

群馬パース大学保健科学部看護学科の学生75名を前に「病をかかえて生きること」と題し、語り部授業を行いました。

学生は将来、病院・施設など医療関連で働くことも考え、自身の疾患「リウマチとはどんな病気か」「リウマチ患者の横顔（リウマチ白書資料）」「障害者が必要な自助具とは」の内容で話をしました。その中で、私を見てどんなイメージを持ったか「先入観と思ひ込み」の質問と、これから先「自分は本当に病と関係なく過ごせるか」、など体験談を交え話しました。

最後に両膝人工関節と変形した両手を見てもらいながら、「障害を持つて生活している多くの患者は、出来る限り持っている機能を使い努力しています。しかし、どうしても出来ないことは人それぞれ違います。そんな時は何気ない（さり気なく）力を貸して下さい。」とお願いし、学生の皆さんとは一期一会の出会いです。将来、臨床の厳しい場面に直面したとき、今回話した内容が一つでも活かされればと願いながら語り部授業を終えました。

△角田美佐枝▽

\*\*\*

私は「難病の概念と難病対策の概要・歴史」を主軸にして群馬県難病団体連絡協議会を紹介しました。特に私が患者会に入会して現在、役員として活動しているわけ、28年前、心臓病の子供を抱えて途方に暮れていた頃の体験談をお話して患者会の活動内容を理解していただくようにしました。

30分間でしたが、熱心に聞いていただき、大変緊張しました。終了後のレポートを拝読させていただくと「このような患者会があることを知らなかった」「患者会の必要性を感じた」「いつ難病になるかわからないなあと思った」「障害者の気持ちを察して、思いやりを持って行動したいと思った」など大変感動する内容ばかりで、このような機会を与えて頂けたことは本当に良かったと思いました。

△小林光枝▽

## エプロンメモ

### ★ほうれん草の蒸しパン

簡単にヘルシーな緑色の蒸しパン!!

1. (A)をふるっておく。
2. さつまいもは皮をむき、小さいさいの目に切り、水にさらす。チーズも切る。
3. ほうれん草は茹でて細かく切り、絞る。
4. (B)に(3)をまぜて、ミキサーにかける。
5. (1)に(2)(4)をまぜて、型にながし、強火で10分位蒸す。



A	薄力粉	200g
	ベーキングパウダー	大1
	ほうれん草	100g
	さつまいも	80g
	プロセスチーズ	50g
B	卵	1個
	牛乳	70ml
	さとう	50g
	サラダ油	大1

# JPA 第2回 関東甲信越ブロック交流会

10月19・20日 / 於・茨城県ひたちなか市 / 主管・茨城難病連

参加者は28名(山梨2名、栃

木1名、東京1名) JPA非加盟、茨城22名、群馬は大澤が出席。アステラス製薬会社よりオプザーバーとして1名参加、新潟と千葉は欠席でした。

茨城難病連村野会長挨拶、JPA常任幹事関東甲信越担当・新津淳氏挨拶、祝電・メッセージ披露のあと、茨城県保険医協会会長・松本和美先生による『医療改革の考え方と難病対策』と題しての講演が行われました。

講演では、医療改革の考え方として次の4項目が話されました。★難病対策と医療改善は勝ち取るもの★医療制度改革には「理念の確立と合意」が必要★医療費抑制のために政府が流す誤った情報を正すこと★県や市町村に働きかけて、その裁量を發揮してもらい、患者本位、住

民参加の医療を目指すこと。

勉強会では、山梨難病連・新津氏より『伊藤私案』について「特定疾患医療費受給の軽快者基準は撤回すべき」と、伊藤私案を具体的かつ明確にしたいと意見発表がありました。



活動報告を行う大澤事務局長

群難連活動のひとつ「広報活動の一環として群難連啓発のため各市町村長に特別賛助会員として1口5千円の会費を納めて

いただき財政的に有効活用している」との報告に対して、他県から多くの関心が寄せられ是非実施したいと評価を得ることができました。

各県の活動報告では、補助金削減や病院崩壊、難病見舞金に所得制限が付いてきたことなど厳しい現状が話されました。県

単独事業については「隣県の動向を注視し関東甲信越一体となつて要望していくのが望ましい」など協力体制を強化することができました。

来年度は群馬県での開催が決定しました。今までの開催県を参考にして準備していきたいと思えます。△事務局長 大澤▽

## JPA 2008 全国患者・家族交流会に栃木

11月15・16日 / 於・栃木県宇都宮市ホテルニューイタヤ

参加者約200名(県外140名、栃木県内60名(連合栃木救護班10名含))

### 【1日目 第1部 全体集会】

伊藤たてお主催者代表挨拶

「北海道から長崎まで遠くからの参加、また地域難病連の皆さんには選挙(市長・知事選)で大変な中での準備、有難うございました。日本難病・疾病団体

以来の開催です。JPAとしては、各県を廻って県民の皆さん或いは、一般参加の皆さんからの意見を聴きながら討議をし、地域社会での難病問題の認識を一層不可欠なものとしていくスタートをこの全国集会としたい」患者・家族の訴え

栃木県腎臓病患者友の会 会長 竹原正義さん

協議会ができて初めての全国交流会で、前身の日本患者・家族団体協議会時代、4年前の岡山

「栃木県の透析患者は約5千人いる。その内約千人が移植を希望しているがドナーの問題、

法律の問題などで実際に移植が  
できない状態である」

栃木県心臓病の子どもを守る会

会長 菅又雅章さん

「1歳になる息子が拡張型心筋症で移植手術が必要になった。日本ではできないためアメリカで手術をするには1億円の費用が必要となり、支援者による新聞、テレビなどの報道で募金活動を行い手術が受けられた。全国からの募金支援に感謝している。臓器移植の推進を！」

記念講演 講師 立川談四楼

難病患者の友人を話題にした落語で会場の笑いをとった。

基調報告 (JPA伊藤代表)

「新しい難病対策―それは全ての国民の安心の医療への道を開く―」

○難病対策の始まりとその社会的背景

薬害スモンと全国に広がった公害病が背景にあつて難病対策が始まった。病気を苦に自殺・心中が多発し、自殺の60%が病気を苦にと言われ、経済の高度



良い情報を持ち帰るべく話を聞く澁澤会長

成長とそのひずみが健康軽視と  
なつて大きな問題になつた。難病問題に対する世論の高まりと  
マスコミの支援の中で続々と患者団体が結成され、これが国会を動かす一大快挙となつた。

○難病対策の歴史を拓いた患者団体、その果たした役割

スモンの会が全国に訴訟を起こしたり、リウマチの会、ベーチエットの会、筋無力症の会、膠原病の会など沢山の会ができた。  
○特定疾患対象疾病選定の基準  
①希少性 ②原因不明 ③効果的な治療法未確定 ④生活面への長期にわたる支障

1995年以降、難病対策を  
どうするか、難病対策が後退して  
いく。患者数が多いというこ  
とで取得基準を設けたり軽症患者  
を外したりして地方自治体で  
も財政困難で対策費が減額して  
いくようになった。

○難病対策実施要綱

1972年に難病対策の範囲  
が決められた。

・原因不明、治療方法未確立で  
あり、かつ後遺症を残すおそ  
れが少なくない疾病(例)ベ  
ーチエット・重症筋無力症)

・経過が慢性にわたり、単に経  
済的な問題のみならず介護等  
に著しく人手を要するため  
に著しく負担が重く、また精神  
的にも負担の大きい疾病(例  
)小児がん・小児慢性腎炎)

○難病問題とは、医療・福祉・  
社会生活の全てに関わる(谷間の  
問題)

○難病を取り巻く状況の変化

・難病対策開始から36年が経過  
・医学・医療の進歩・発展。診  
断・治療の大幅な進歩

・早期発見と生存率向上。高齢  
化社会により患者数が大幅に  
増加

・難病の多様化などもあり対象  
疾患拡大の要望増加

・社会の難病に対する認識も変  
化し、今は難病患者の就労問  
題が大きなテーマになつてき  
たり、各県に難病相談支援セ  
ンターが設置されるなど、様  
々な変化により35年前と大き  
く違つてきている。変わらな  
いのは医療保険制度で、患者  
負担が大きく増加している。

医療や福祉、社会状況の谷間  
を埋めるものとして誕生した  
難病対策。しかし谷間を埋め  
る作業や谷間を作らない努力  
はされてきたのか? 「谷間」  
を放置してきた国会や政府の  
責任は重い。今が難病対策を  
根本から考える好機。

○難病対策に入れて欲しいとい  
う患者・家族団体の要望が続々

・患者数が多いという理由だけ  
でこの対策から外せない。難  
病は難病である。

- ・ 毎年1つ2つと拡大していく方法では百年かかっても解決しない。20歳の誕生日を以って生涯の医療費が自己負担となる小児の難病も大きな問題。
- ・ 限られている予算をどう打ち破るか。多くの国民も医療費負担にあえいでいる。
- ・ 多くの国民の理解を得る対策の変換が必要。

○難病対策に求めるもの、期待は何か

医療費負担の軽減、福祉制度の総合政策、就労支援、原因の究明、治療法・治療薬の開発。社会生活全般にわたる理解と支援。

『JPA伊藤私案とは』

難病対策は難治性疾患克服研究事業に特化し全ての難病を対象に。生涯にわたる医療費の負担の軽減は保険医療費の改善でヨーロッパ諸国並みに。

生涯高額な医療費を必要とする多くの長期慢性疾患も併せて解決へ。

その他、ヨーロッパ諸国の希

少疾病対策や医療費負担について報告があった。

【2日目 第3部 分科会】

テーマ『地域から考えるこれらの医療』

第1〜5の分科会のうち、第3に井田が、第5に濹澤が参加。



ハイ、井田さんこっち向いて (休憩時間に)

第3分科会テーマ「どうなる私たちを取り巻く医療問題！」

〔分科会常任幹事がプレゼンテーション〕

- (1) 高齢者福祉、医療について、
- (2) 地域医療格差についてテーマ別討議を行い、井田は(1)のテーマに出席。

後期高齢者医療の問題点は何かく感じる)

- ・ 自己負担が増える (直ちに重く感じる)
- ・ 年齢による課税が問題である
- ・ 医療費の削減がかい間見える
- ・ 後期高齢者の名称が悪い
- ・ 制度自体が分かりにくい
- ・ 年金天引きは異論がある。支払いには各個人で決定したい

第5分科会テーマ「魅力的な患者会作り」ーみんなで語るワークショップー

後継者がいない、資金がない、会員が増えないことについて

- ・ 時代と共に進化する患者会に
- ・ 民間団体の力が社会を動かす時代 (会員だけの会ではなくなった)

- ・ 後継者育成には他団体と多く関わり、人との交流の機会を増やして経験を積む
- ・ シーズ (助成金情報満載のホームページ) の活用
- ・ 事務局体制不整備。1人に仕事が集まらない役割分担を
- ・ 若い人の就労問題
- ・ 発症してからの年数 (経験)

による考え方のズレ

- ・ 患者・家族が求める情報⇨患者団体が発信している情報
- ・ 役員のみ手がらないについて
- ・ 楽しい活動に
- ・ 継続のためにはボランティア精神が必要
- ・ 活動のマンネリ化はないか
- ・ 役員の交代
- ・ 行事消化の講演会ではないか
- ・ 開催時期や日時を変えてみる
- ・ グループで話し合ってみる
- ・ 原点に戻って所属団体の活動を振り返ってみる

「原点に帰る&継続は力なり」  
入会申込書は漫画タッチにしている (埼玉腎協)  
考えさせられる点が多々ありました。今後参考にしていきます。今後参考にしていきます。と思います。

△文責 井田▽



【全国一斉街頭キャンペーン】

イオン高崎店前で497筆

昨年引き続き、今年もイオン高崎様のご協力をいただき、10月11日午後1時から2時30分、全国一斉国会請願街頭署名行動に取り組みました。

群難連からは役員、理事、各会代表など21人、学生ボランティア10人が参加し、5ヶ所の出入口で署名の協力を訴えました。ボランティアの学生たちは初めての署名活動ということで、



いまどきの若者、結構協力的です

はじめは恥ずかしそうに声をかけていましたが、群難連の慣れた呼びかけを学習したようで、若さを全面に訴え始めました。

ときどき強い風が吹く生憎の天候でしたが、497筆の署名を集めることができました。参加されたみなさん、本当にありがとうございました。



事務局狩野さんも頑張りました

△広報委員会▽



ボランティアの学生さん



本部で集約管理をする大澤事務局長



田村書記もお客さん呼び止めて

難病、長期慢性疾患、小児慢性疾患の  
総合対策を求める請願書

2008年 国会請願署名一覧表 (JPA)

第1位	福岡難病連	53,232名
第2位	群馬難病連	51,240名
第3位	大阪難病連	50,973名
第4位	愛知難病連	48,978名
第5位	北海道難病連	46,521名

(群馬県は全国第2位でした。)



桐生の岸 貞司さん(左)と、みなかみの岸貞夫さん(右)

現在、取り組み中のものは2009年分になります。

# よろず相談室

毎月第2・第4日曜日  
午後1時～4時  
難病患者の  
悩みや相談を  
難病患者の仲間が  
親身に応じます  
☎027-254-0732  
(専用電話)

※  
県難病支援センター主催  
難病相談技術研修会

## 「コーチングとは？」

3月13日を含めると4回シリーズ(7/3・8/26・9/18)での勉強会を行いました。

群難連からの参加者は延べ66人で各所属団体から相談事業に関わっている方などを中心に継続して受けていただきました。

講師は石井秀明先生(コミュニケーションラボ・学習塾ブレス塾長)でグループワークやロールプレイを交えた講義は楽しく、感動したり、感心したりで、2時間が瞬く間に過ぎてしまい、毎回楽しみでした。

学習した内容を現場で活かしながら経験を積み「良いコーチ」を目指したいと思いました。

へよろず相談室担当 小林V

## 終了後のアンケートから抜粋

- 「コーチングという言葉聞いたときは何だろうとすごく難しく考えていましたが石井先生の指導のもと実技の中から少しずつ理解できたように思います。
- 本当に参加して良かったです。楽しい時間を過ごせました。家庭内で自分が夫の話を傾聴していなかったことに気付き再確認させられました。
- 「コーチングの意味が分からないままスタートしましたが納得。いろいろな物事や場面において活用できるのではないかと有意義でした。
- 傾聴できなかった自分に今までの行動を思い浮かべ、何が悪かったか気付くことができたように思う。
- 人の話を聞くことの難しさを実感しました。コーチ役になったとき、クライアントの人の一方的な話に一言も発することができませんでした。もっと経験を積んでいきたいと思っています。

## ※「コーチング」

「コーチの質問にあなたが答えることであなた自身が「気づく」コミュニケーションです。

「コーチングでは、質問をする方を「コーチ」、質問に答える側を「クライアント」と言います。コーチはクライアントが達成したいことを明らかにし、それを実現させるための具体的な方法を一緒に考えていきます。

基本的に「コーチはクライアントに「命令」や「指示」をすることはありません。あくまでクライアント自身が自分の道を見つげるためのお手伝いをするのがコーチです。

「コーチングでは「クライアントにとって一番良い方法はクライアント自身が知っている」という原則に基づいてセッションを進めます。

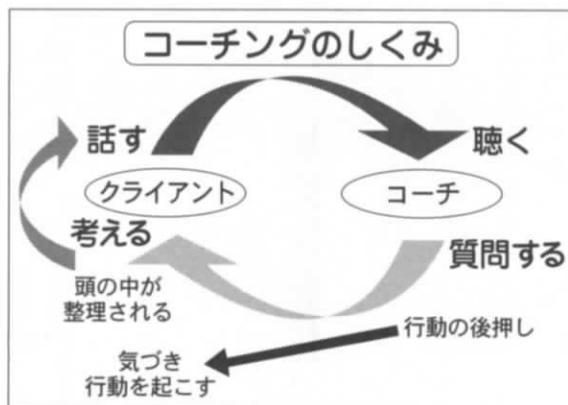
群難連主催  
難病相談技術研修会

## 「賢い患者になるために」

「トラブルを起こさないよう患者自身ができること」

講師に根岸法律事務所の根岸 県難病支援センター支援員2名の参加で行われました。

10月16日(木)  
県庁29階292会議室





根岸 茂弁護士

講演では、レジュメを使って  
(1)医師と患者の法律関係、(2)医師の裁量、(3)患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、(4)権利は義務を伴う、の4項目について法律関係、医師の義務、裁量や患者の権利等を事例をあげて詳しく説明されました。

インフォームド・コンセントの関係で、患者は十分な説明を受けた後、治療を受け入れるかまたは拒否する権利を有することやセカンドオピニオンを求め、また「全部おまかせします」「全部まかせなさい」は患者にとっても、医師にとっても危険であるとの内容は大変参考になりました。

根岸先生は20数年、医療訴訟裁判に関して、現在も3〜4件の医療裁判の弁護を行っているそうです。その多くの経験

から、より良い治療を受けるには患者自身も病気に対して理解し勉強していく必要があると述



根岸弁護士の講義、受講中！

べられました。

質疑では「来年から実施される裁判員制度について」「C型肝炎の感染による苦勞と訴訟を起こすときのアドバイス」「子どもさんの心臓手術時の心の葛藤」「難病の治療で大量の輸血によるC型肝炎感染と現在の心境」が出されました。根岸先生は、肝炎訴訟では、カルテなどの破棄により事実の証明が非常に難

しく、裁判は大変厳しいが、このような患者会の活動が重要だと答えられました。  
終わりに司会者から「自分の病気をよく知る、医師からの説明をよく聞いて自分自身で勉強する、自分の病状を正しく説明できるようにする、医師と一緒に病気を闘う」とのまとめの言葉がありました。  
△前橋市難病友の会 水口▽

県難病支援センター主催  
難病相談技術研修会

11月6日(木)  
県社会福祉総合センター

## 「賢い患者になるために」

～会話テクニク～

講師に、難病患者でもある鱈すずき伸子氏(オフィスSerendipity)を迎え、群難連から28名、非会員5名の参加で行われました。

講師に、難病患者でもある鱈すずき伸子氏(オフィスSerendipity)を迎え、群難連から28名、非会員5名の参加で行われました。

今回の～会話テクニク～では、これまでのコーチングの講演等で『まず聴くこと』と教えていただいたものにプラスアルファする内容だと思えました。それは、クライアントの話の中で「何が伝えたいポイントなの

講師の中でコーチングが機能するために意識したコミュニケーションをとることが重要である、ということがありました。自分のスタイルを知り、クライアントのスタイルを感じとり傾聴すると、相手との信頼関係が築けるので良いコミュニケーション

「これまで人と話すことがあまり得意ではなかったのですが、傾聴を心掛け、相手に信頼してもらえるように意識して会話をしたいと思いました。」

△IBD友の会 大泉由紀子▽

「ヨンがとれるようになるのだという事です。また、コミュニケーションスタイル(特徴)を4つのタイプに分けてお話ししていただく中で、自分のタイプを見つける作業もしました。人は千差万別なのでみんな違うと思っていました。おおかまに4つに分ければ確かに当てはまると思えました。それぞれのタイプを典型的な有名人を挙げて説明していただき分かり易かったです。更に、外に対する時と内向きの時で使い分けできるタイプの人もあるとのことでした。」



ベーチェット病患者  
でもある講師



メモをとり、<sup>すすき</sup>講師から「会話テクニック」を学ぶ

## 「臓器移植月間を迎えて」 群腎協 会長 水沼文男

毎年10月の第1日曜日は全国一斉の臓器移植推進街頭キャンペーンの日になっています。今年も東京では、銀座で街頭パレードを行い、市民に意思表示カードを配布し、臓器移植を訴えました。

私共群腎協では、9月から11月を臓器移植推進月間として各地域のイベントに参加して、意思表示カードの配布と説明をすることを進めています。

特に今年9月に県内初の脳死判定が行われ、前橋でのイベントでは市民の関心の大きさを感じました。脳死の判定を受けた方は、30歳代の女性の方でした。心臓は東京、肝臓は北海道、肺は片肺それぞれ東北へ、腎臓の一つと膵臓は九州、もう一つの腎臓は千葉県へ。全国各地で新たな人生を出発された方が6人います。そういう意味では、移植って素晴らしいことだなと思って

おります。もちろん脳死判定を受けられた女性のご遺族のことを忘れてはなりません。この真心からの贈り物を亡くなられた方の分までしっかり生きることが真心に応えることだと思っています。

1997年10月16日に臓器移植法が制定されて11年で1例目の脳死判定ですが、これからの群馬県における臓器移植の出発点になると期待しています。

また、今年度は群馬県健康福祉保健予防課と群馬県健康づくり財団(臓器移植推進室)から移植の意思の確認が出来るように「群馬県からのお知らせ」のA4判のパンフレットが完成しました。

そして、県内の病院のご協力により院内コーディネイターも35名になりました。今後の群馬県の臓器移植に期待をしていきたいと思っています。

# 加盟団体の総会開催報告

7月27日(日)

洪川市中央公民館

## 洪川地域難病友の会

### 第9回定期総会

群難連澁澤東三夫会長を迎え、38名の参加で行われました。例年は、透析患者以外の人達が11名も参加してくれたことは無く、今年は特筆に値し、難病友の会の目的とする幅広い患者間の親睦を図る会の姿だと思いい、この会を開設して9年目、やっと初期の目的に近づいた感じを受け、勇気づけられました。

来賓には、洪川障害者福祉協議会の星名会長(県議)と奥木事務局長を迎え、前難・桐難からはメッセージを頂戴し、会を盛り上げていただきました。それぞれ「後退する医療行政を鑑み、このような時こそ団結の力の重要なことを主張され、共に頑張ろう」の要旨でした。

総会自体は、吉村副会長の司

会、栗原群腎協ブロック長の議長で順調に終了。その後本日

のメインの医療講演会を有馬クリニックの神保進院長に講師をお願いし、約1時間「医療時事放談」と題して自由に話していただき、残り時間は自由質問としました。病気は違っても共通する話題や講演内容で、有意義で中身のあるお話しでした。特に混合診療による外国との金銭比較のこと、また、医療ミスの話、裁判の産婦人科医の事例をあげての話には、医療行政というか、制度の複雑な一面をうかがった気がし、今さらながら医師の立場の難しさを知らされました。

透析関係では、血液透析の理想的な間隔は1日置きだが、人的な問題、勤務体制などの難しさがあり、実行できないというところのこと。その他、長時間透析についての質問もあり、予定時間を過ぎましたが、明るい内に

家路に着きました。

〈須田和秀〉

8月9日(土)

県社会福祉総合センター

## つくしの会

### 新役員決定!

つくしの会の発足と共に長年にわたり貢献してこられた会長の寺山理さんが退任され、実務的な部分を群難連役員から派遣される角田副会長、町田事務局次長が、つくしの会の責任者として私井田書記が務めることになり、平成19年度の活動報告と会計報告並びに監査報告が行われ、続けて平成20年度の活動計画の提案が行われました。

新役員については、会員の要望に基づいた運営を進めるため、当日出席された会員の中から役員を選出しました。

話し合いの結果、会長・吉永節子さん、副会長・田所直栄さん、会計・大泉由紀子さん(群難連事務員)、監査・高尾久男さん、安藤昭司さん、群難連理事・田所直栄さんをお願いする

ことになりました。

〈井田尊久〉

8月17日(日)

県社会福祉総合センター

## 群馬肝臓病の会

### 第30回総会

群難連の澁澤東三夫会長を迎え開催しました。

冒頭、羽田会長より「高齢になり会長職は無理と判断し、休会の思いもあったが、群難連のご協力をいただき継続できたことに感謝申し上げます」との挨拶がありました。今総会で、会を長年指導されてきた羽田会長が退任されました。今までのご苦労に感謝申し上げますと思います。また、澁澤氏より肝臓病の会が30年を迎えたことへのお祝いの言葉をいただきました。

議事に入り20年度の活動計画が提案され質疑応答のなか、中央から講師を招いての勉強会、参加者の交通費、新会員の加入促進等々への意見があり、その後、拍手で承認されました。

新役員が選出され、新体制で

の運営となりましたが、何分、私達役員は会の運営には不馴れな者ばかりです。群難連の協力をいただきながら活動していきたいと思っております。

総会後は第2部の交流会に入り、初めての試みでしたが、お茶を飲み、お菓子を食べながら、自分の症状や会員高齢化の中で、今後の会活動についてなど、同じ境遇ということで、忌憚のない話し合いがされ、有意義な1日になりました。体調不良な方が多かったせいか、出席者が少なかったのが残念でした。

私達は経済的負担、長い闘病生活で苦しんでいます。群難連加盟団体として、他の難病団体と協力をし、医療の向上、行政からの助成など、粘り強く活動から続けていくことが必要と考えます。病気を独りで悩まず、会員同士が気軽に話し合える場を設けると共に、多くの肝臓病の人達に入会を呼び掛けていくことが課題であると考えます。

△福田俊昭▽

筋無力症友の会

群馬支部総会

9月7日(日)  
館林つつしが岡パークイン

会員・家族合わせて8名の出席があり、来賓の群難連の町田さんには遠く前橋から来ていただきました。

昼食を挟んで午後からの交流会ではそれぞれの近況や最近使われている薬、医療情報などで盛り上がりました。

今回、総会・交流会の会場となった部屋は和室で、足を崩したり、投げ出すことができたのですが、やはり、背当てのある椅子に腰掛けた方が楽だったかな? と、反省点が残りました。筋力の弱い筋無力症の患者にとっては背中を預けられる座椅子があると助かります。参加された皆さんは相当お疲れになったことと思います。

今年度は役員達の様々な事情が重なり、総会開催が危ぶまれたのですが、皆さんのご協力です無事終えることができました。

感謝、感謝です。

この日、不参加のIさんから入院中に作ったという手芸品(糸を巻いて作ったこぶし大の鼓)を総会に向けて送っていただき、参加者達の良いお土産になりました。

新入会のHさんは手話通訳者を伴っての参加でした。同病の人達との初めての交わりにどんな感想を持ったかしらと心配をしていましたが「みんなが優しく驚きました。優しいってうれしい!」と感想を、家に帰るとすぐにメールで伝えてくれました。

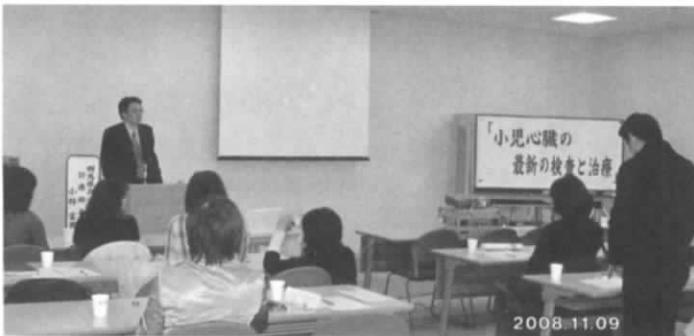
何も言わなくてもそこに居るだけで伝わってくる仲間達の思いやりや、会ったことのない仲間達に「皆さんにどうぞ!」と手芸品を届けて下さったIさんも、追いかけるように素直な言葉を伝えてくれたHさんも、みんな優しく素敵です。心がホンワカ、あったかくなりました。

△白沢恵美子▽

全国心臓病の子どもを守る会群馬県支部

11月9日(日)  
県社会福祉総合センター  
「らびぱーんを  
めぐろう」  
第37回総会

今後の会活動をより充実させるために、お父さん達の方もプラスしていこうと呼びかけました。また、成人した病児が自ら交流していく『心友会』も始動し、さらに会が活発になることが期待されます。△三木智美▽



県立小児医療センター・小林富男診療部長による医療講演会が行われ35名が参加

# 名会からの 行事報告

## デイキャンプ

心臓病の子どもを守る会  
瀧澤充己子

去る9月6日(土)、恒例の夏キャンプが行われました。今年は参加者が増えるようにと、日帰りのデイキャンプになりました。そのおかげか、参加者は大人24名・子供18名・学生ボランティア



お父さんお手製の流しそうめんタワー

ティア3名と大盛況でした。小児医療センターの小林先生や看護師さん2名も駆けつけてくださいました。場所は観音山ファミリーパーク。まだ残暑厳しい中、朝10時〜夕方4時まで丸一日、楽しみました。

まず目についたのが、お父さん達お手製の見事な「流しそうめんタワー」です。半分に切った竹をつなげて、片方を脚立にのせて、ホースで水を流す仕組みです。朝からお母さん達が茹でてくれたそうめんを少しずつ流していきます。すると子供達は先を争って食べました。大きい子は高い所、小さい子は低い所に仲良く陣取って賑やかにいただきました。

続いてバーベキューに取りかかりました。その頃には日差しが強くなり、焼く係の大人は汗だくです。それでも焼肉、焼きそば、焼おにぎりなどがおいしくできあがりしました。その間も子供達はボランティアのお姉さん達と元気にアスレチックで遊

びまわっていました。暑い中、子供達の面倒を見てくれる学生ボランティアの皆さんには、頭が下がりました。

お腹が一杯になったところで、涼しい交流室に移動して大人は茶話会。日頃の悩みなどを話すことができました。子供達は外で水鉄砲やシャボン玉などで遊びました。最後まで楽しく交流出来た一日でした。

## 戦没画学生たちの 想いにふれた 「無言館」の旅

### 脊柱靱帯骨化症友の会

台風が九州にまで接近していた9月28日、心配していた天候も薄曇り、信州上田市にある戦没画学生慰霊美術館「無言館」鑑賞などを中心に、15人乗りのマイクロバスに会員・家族など14人が参加して、会員交流の日帰り旅行を行いました。

無言館では戦争末期に心ならずも戦地に駆り出された画学生



「無言館」第1展示館の前で

たちの切ない心情にふれ、胸を熱くしました。

昼食は、地元の方が作られた信州そばを堪能し、北国街道の宿場町が保存されている海野宿を旅人になった気分で散策しました。

帰りには、江戸時代の名力士・雷電為右衛門の生地近くにあり、「雷電道の駅」に立ち寄り、思い思いに土産を買い予定通り17時30分、前橋に帰りました。初めてのバス旅行による交流会でしたが、楽しく交流もでき、有意義な一日を過ごすことができました。

△町田▽

## 湖畔の宿の 勉強会に参加して

パーキンソン病友の会  
高橋みどり

去る10月5日(日)～6日(月)にゆうすげ元湯で開催された1泊研修会に、夫の付き添い兼運転手として参加させて頂きました。

今年2月に入会してからまだ日が浅いため、どのようなメンバーが来られるのかと少々不安な気持ちで、霧雨の降る中、マイカーを運転して、楓が色づきはじめた山道を榛名湖畔を目指して登りました。宿に着き、受付で名前を告げると部屋割表を渡されて、同室者は小野さんご

夫妻とわかりました。4階の部屋へ行き、自己紹介をして小休止した後、午後3時より1階の研修室で勉強会が開かれました。初めに会長の井上さんの挨拶に続いて、日高リハビリテーション病院の横山雅人先生の講演とリハビリ体操の実技指導があり、体力の低下を防ぎ、筋肉や関節を柔らかくするための運動をおこないました。

次に、群馬大学医学部脳外科の准教授平戸先生のP病の病理についての講義があり、日頃疑問に思っていた体重減少や嚥下障害等についても、この病気が原因であることが解りました。

夕方6時より、1階のレストランにおいて交流会並びに食事会が開かれ、カラオケを楽しんだり、和気あいあいと話に花が咲き、楽しい一時を過ごすことができました。

翌朝7時30分より朝食をとり、8時30分から自然観察会の予定でしたが、あいにくの雨天のため中止となり残念でしたが、

「榛名湖周辺の山野草について」の講演を小林栄一氏にして頂きました。

初めてこのような行事に参加させて頂きましたが、冒頭で述べた不安は全く取り払われませんでした。一人で外出することが少なくなりがちな同病の皆さんも、同じ悩みを持つもの同士、胸の

## 親睦交流会開催

膠原病友の会

11月3日、膠原病日和(薄曇り)に恵まれ、参加者13名で秩



完成した色紙を手に7寺目の東林寺にて

内を語り合うことで気持ちが楽になるのではないでしょうか。その意味では、もう少し時間的余裕があると更に良かったと思います。

最後に、このような楽しく有意義な研修会を企画して下さいました役員、関係者の皆様に深く感謝いたします。

父へ出かけました。木の葉のコラボとまではいきませんでした。が、所々紅葉していて、何より思い掛けず冬桜も鑑賞でき感激しました。秩父の七福神めぐりをしたのですが、ひと寺ごとに御宝印を頂き、完成した色紙に充実感を味わうことができました。因みに『七福神はインド、中国、日本の神仏がひとつの船に乗っています。それぞれ個性を持ちながらも相手を認め、楽しくひとつになっっている所に福は来る』そうです。今日一日、神仏に関わり、気持ちを浄めて帰路に着きました。 〓東谷〓

## 寄付御礼

今年も連合群馬様、東電スズラン労組様、東電労組様から寄付金を頂きました。役員・会員一同心から感謝申し上げます。



## 趣味・仕事・病気

I B D友の会 村岡哲夫

私の趣味は、超をつけても良いくらい大好きな「ボウリング」です。初めは友人に誘われて、運動不足解消の目的で始めました。ところがボウリング教室に参加して、その面白さに夢中になり、マイボールまで購入して毎週2、3回するほどになり、今では地元のプロの大会を観戦していくほどです。ボウリング大好き馬鹿な私です。

友の会で毎年開催しているボウリング大会ではいつも幹事を引き受けて頑張っています。しかし、顔ぶれはいつも同じで少数しか集まらず、とても寂しい状況です。新しい参加者が増えることを切に願っています。

仕事は、某大手事務機器メーカーの部品製造会社で、大きな機械を任せられ、特殊な加工技術員として勤続20年になります。会社は私の病気を理解してくれ

てはいますが、技術員としての私の代わりになる者はいなくて、病気が悪化しても会社を休めないのが現実です。毎日、仕事が辛くて、他の会社に転職したいと思っているのが本音です。

つい最近、学生時代の恩師に会う機会があり、食事をしながら自分の病気のこと、結婚ができないことなどいろいろな話を聞いてもらいました。

そして、恩師が言ってくれた言葉は「『人間の生きる希望、生き方』には4つある。人に愛されること、人に必要とされること、人に褒められること、人の為に役に立つこと」でした。恩師が教えてくれた4つの生き方を大切にして、今の職場でできる限り仕事に励み、趣味を楽しみ、友の会の活動をしながら、色々な面で必要とされる人になっていきたいと思っています。

愛しさと切なさど心強さを持って、上を向いて歩いて行くこう、と思います。

健康者に負けない、という気持ちを持って病気と上手に付き合っていきたいと思えます。

## なんねん 川柳教室

羽田 桐柳

孫抱けば絵になつてゐる母の顔  
団樂のまあるく笑う母思う  
省エネになるかも知れぬ再利用  
巣立つ子へこたす啻呼んでる里ごころ  
星の数あなた独りと半世紀  
正論の雑魚一匹に骨がある  
良心を売った男の影がない  
カタカナ語日本文学軽くする  
一杯が二杯となって嫌われる  
地図にない坂道がある人生譜

## 事務局便り

▼11月初めの夜、めったに鳴らない電話が鳴った。受話器を取ると、脊柱靭帯骨化症の患者を夫君に持つ細君からだった。▼夫君は定年前の現役の時に発症。トラック運転手で重い荷物の積み降ろしなどしておられたが、

やむをえず定年前に退職▼そして今年9月下旬、手足のしびれが急にひどくなり、病院で診察を受けたら即入院。手術を受けた▼2週間で退院したが、いまだにベッドから1人では降りられない▼以前の医療講演会でS先生は「早期に手術をすれば全快するが、国の予算が足りないからひどくなってから手術せざるを得ない。だから、全快までの回復にはならない」と▼細君は介護のためアルバイトで働くことさえままならない。預金も使い果たした▼失礼とは思ったが生活保護の申請を勧めた。役場の窓口相談に行ったら早速、民生委員が相談にのってくれたとのこと▼私自身も手術を受けたが症状は改善されていない。早期に治療すれば全快したかもしれないものを、と国の医療政策の貧困さを痛感する▼そんな折、『定額給付金』が毎日報道されている。それも2年後の消費税増税がちらつく。2兆円の税金は医療・介護・福祉にまわしてもらいたいもの。

△事務局・町田▽

# 加盟団体の病気を知ろう！……⑤

## 肝臓病とは

群難連加盟団体の疾病概要を新しい仲間から順次紹介しています。  
今回は「肝臓病の会」です。

### 【機能と働きと肝臓病】

肝臓は消化器系の器官で、人体の中で最大（成人体重の約50分の1）の組織です。その働きは腸で吸収された糖、脂肪、タンパク質の3大栄養素の代謝はもちろん、胆汁を分泌して消化を手助けし、血液の凝集を調節する作用があります。また、薬剤やアルコールのような本来身体にとって異物である化合物の代謝、アンモニアや腸内の細菌の働きで作られる有害物質などの解毒、ビタミンやイオンの貯蔵、そしてホルモンの不活性化まで、生命の維持に必要な多くの働きを行っています。

肝臓病を起こす原因で代表的なものが、B型、C型といわれる肝炎ウイルスです。肝臓の中に入り込んだウイルスを排除しようと免疫が働き炎症を起こします。その結果、かなりの数の肝細胞が死し血中に出てくる、これがGOT、GPTといわれる血液検査に数字として出てきます。（検査項目は多数あり）

肝臓は「沈黙の臓器」といわれ、肝炎が起きても自覚症状がほとんどないため、感染していることに気付かない人も多く、治療を行わないと10年～20年の間に慢性肝炎、肝硬変、肝ガンへと進行していく病気です。全国で350万人ともいわれ、毎年45,000人も生命を失っています。



### 【症状】

- 慢性肝炎とは、肝臓の炎症が続く状態を言います。ほとんどが、B型、C型のウイルスが慢性化したものです。自覚症状がほとんどありません。症状が悪化すると、だるさ、吐き気、食欲が無い、などが見られます。
- 肝硬変は肝臓が硬くなり、その機能を果たさなくなり、最初は自覚症状が無いまま進行していきます。症状が悪化してくると、体の各部に症状が現れます。肝機能が安定していればよいのですが、黄疸、だるい、疲れやすいなどが現れると注意が必要です。
- 肝ガンの70%は肝硬変に伴うもので、初期のうちにはゆっくり進行するので症状は現れない。症状が進行してくると、発熱、体重減少、腹痛、黄疸、腹水などの症状が現れます。

### 【治療】

慢性肝炎の治療は自然に回復することは少なく薬が必要です。強力ミノファージェンCで肝機能の安定化をはかる、インターフェロンは副作用もあるが効果はあります。C型肝炎は、型により、インターフェロンでウイルスが排除されますが全てではありません。

B型肝炎はインターフェロンでもウイルスは排除されません。インターフェロンによって症状の進行を遅らせる治療になると思います。現在は更に良い薬が開発されています。定期的に血液検査、エコー、CT、場合によっては肝生検と、検査をしていくことが大事です。肝機能が異常を示している場合は重労働を避け、安静が必要かと思えます。

### 【日常生活】

肝機能が安定していれば、普通の生活をしています。規則正しい生活、暴飲暴食を避け、インスタント食品等はなるべく食べないようバランスの良い食事、睡眠時間は十分にとり、お酒はさける、無理をしないこと、肝臓に負担がかかるようなことが無いように心掛ける必要があると思います。

群馬肝臓病の会 副会長 福田俊昭

### 虫くい川柳

- ① お互いの親を□□□にするケンカ ☆  
 ② □ばかりかけて寂しい人ですネ ト  
 ③ 叱るため少しは添える□□言葉 ン  
 ④ お婆さんセールスに勝つ□□ある ヒ  
 ⑤ 冷蔵庫□□□□席にいるタマゴ ☆
- ① やーい、やーい、お前の母さん○○○だなんて。  
 ② 秘密主義、それとも用心深いのか？  
 ③ 「アメとムチ」上手に使わなくちゃあ。  
 ④ さすが年季が入ってるものね。  
 ⑤ 特等席カタカナ4文字

#### 〔問題〕

ヒントを参考にして□内にそれぞれの確な言葉を入れて下さい。

#### 〔応募要領〕

◆ハガキに①～⑤までの番号と答えの言葉のみを書き、住所、氏名、電話番号を明記して下さい。

◆賞品 全問正解賞、残念賞（ユーモア賞）として図書カードを贈呈。

◆応募締切日 平成21年2月2日（月）

◆応募先 〒376-0011

桐生市相生町1丁目422

羽田 桐柳（宛）

（月刊「川柳マガジン」新葉館出版社・出題転載承認済）

ただし、□内には1文字が入ります。  
 下記の応募要領により多数ご応募下さい。

#### 【新刊43号の正解】

- ① どのくらい好きかと聞けば手をひらけ  
 ② 鞆切を借りれば良かった俄か雨  
 ③ 背なの子に回照りがきつい立ち話  
 ④ 原稿の遅れるわけはありきたり  
 ⑤ 換気扇つければ廻りそうな家

43号の正解者はいらっしやいませんでした。初めて答えを寄せてくださった方もあったのですが、残念でした。

今回44号に出題させていただく①の作者は青古さん、②の作者は俊彦さん、③の作者は瓢人楼さん、④は洋子さん、⑤は政子さんです。ちなみに、虫くい川柳は穴埋め川柳とも申します。

今回も奮ってのご応募、お待ちしております。

### 編集後記

■後、数日で新しい年を迎える。私が小さい頃元旦には、風呂に入り体を清め新しい服に着替えたものです。でも今はその風習を守っている家はあまりないと思う。自分もしてはいない。

■農家は刈り入れが終わり、仕事一段落し、11月のえびす講に家族全員の服・履き物まで揃えたものです。それが唯一の楽しみであったと思う。私も子どもの時、母が揃えた服に手を通すのが楽しみでした。△塚越▽



機関紙「群なんれん」43号発送作業中!! (7月31日・11名)。文教委員+役員・理事で毎回こんな感じでを行っています。今回の44号も12月21日(日)に、口はヒマなので、おしゃべりしながら楽しく作業をします。